



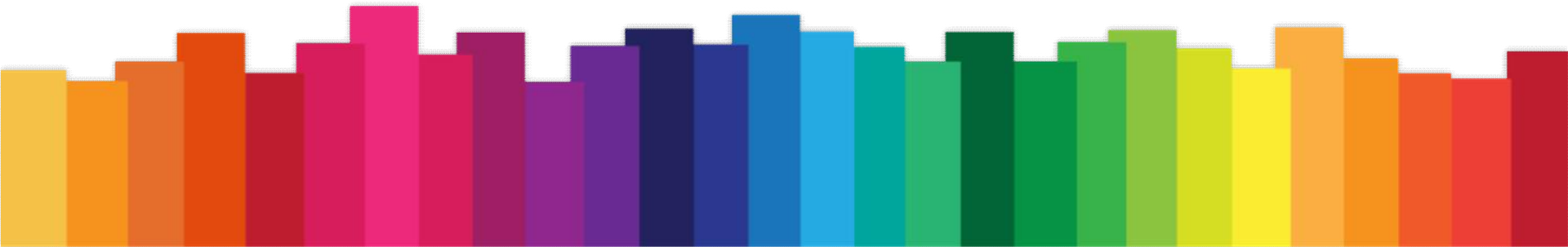
宇城市における 介護事故の発生率と傾向について

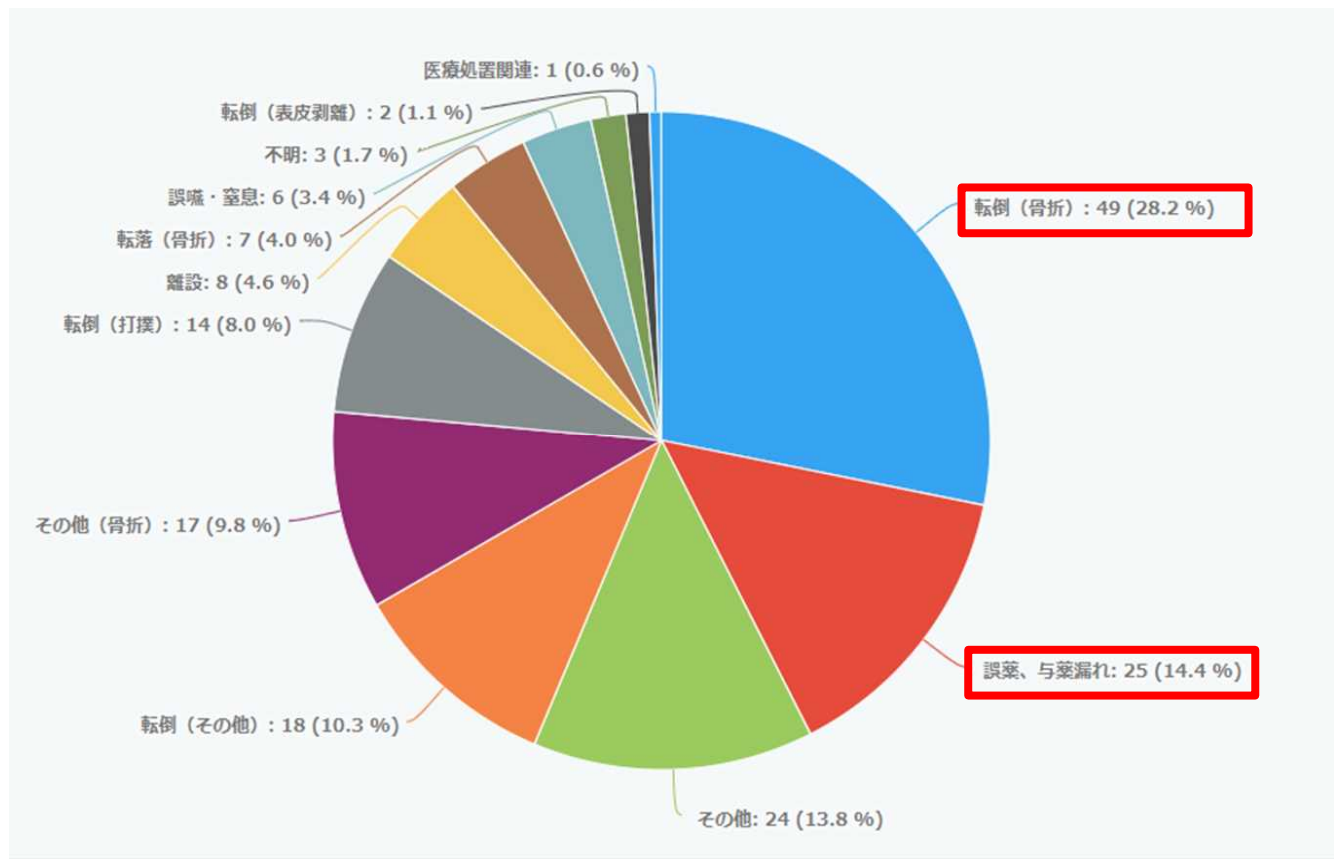
宇城市福祉部高齢介護課





事故の種類（全体）

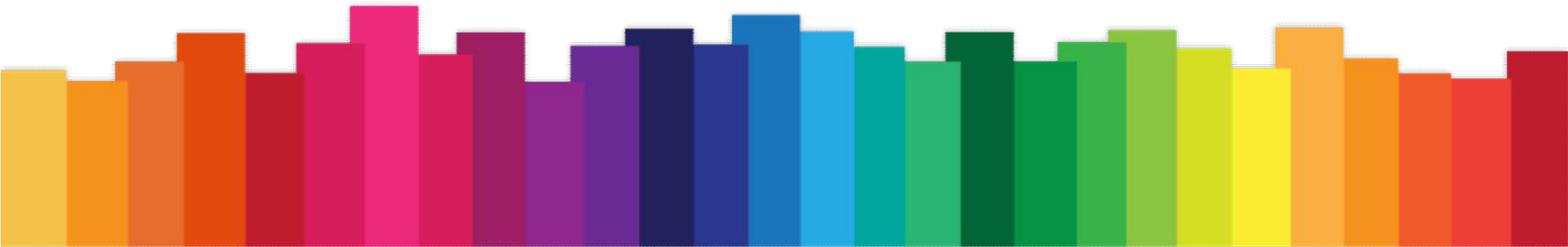


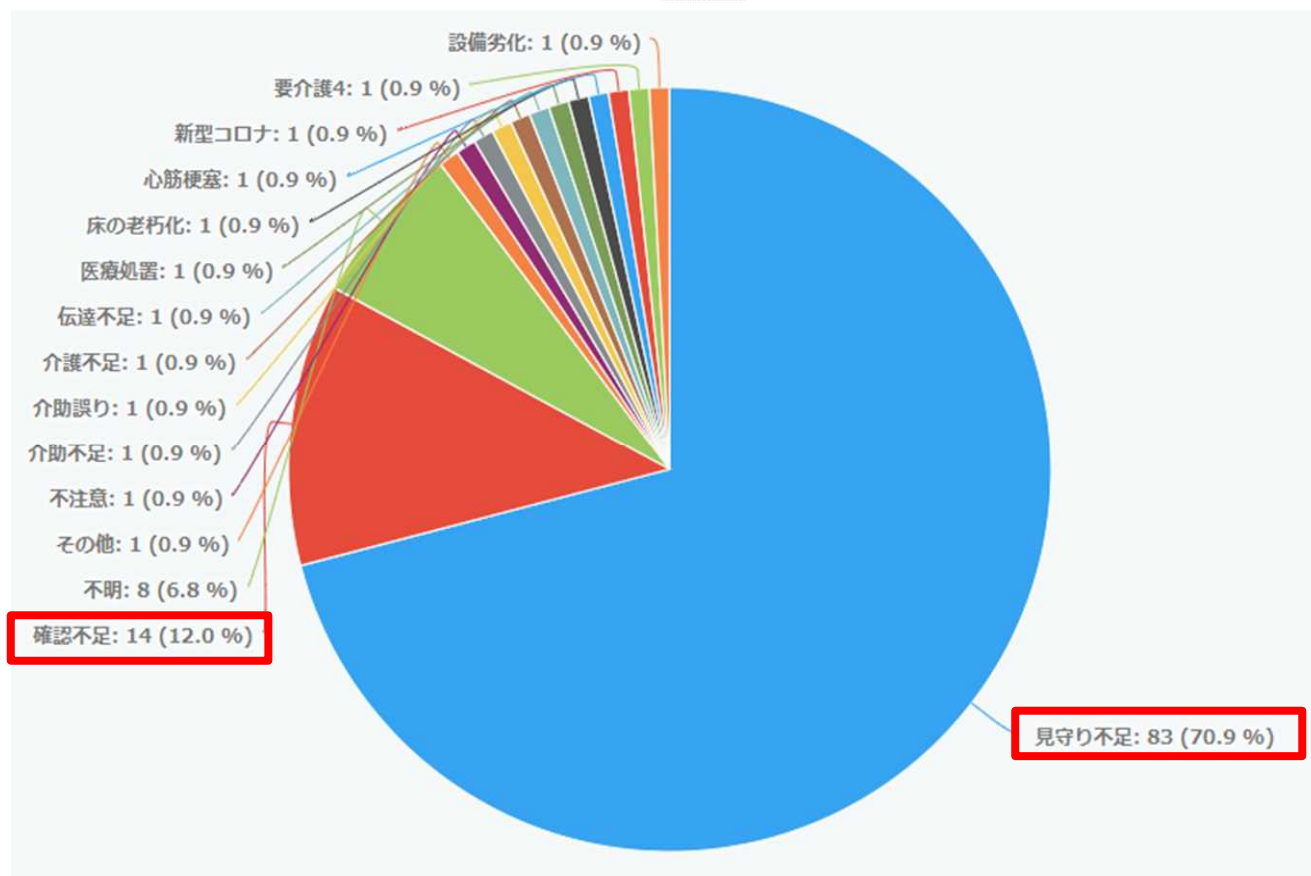


事故発生日：令和7年4月～令和7年12月



事故の要因

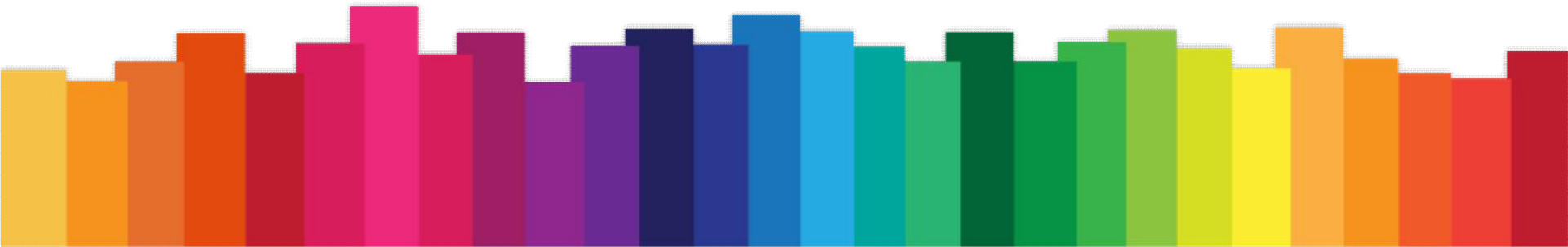


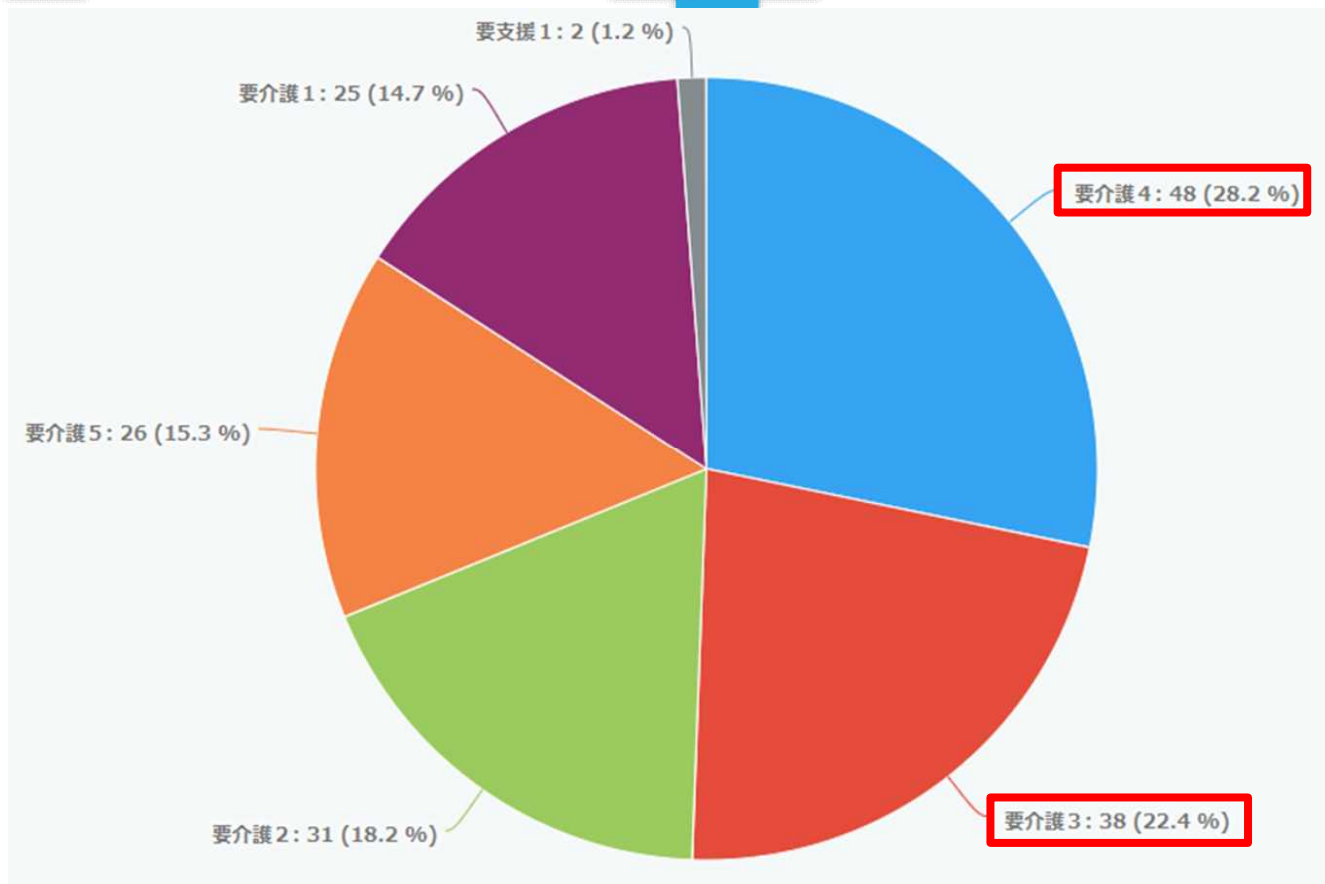


事故発生日: 令和7年4月～令和7年12月



介護度

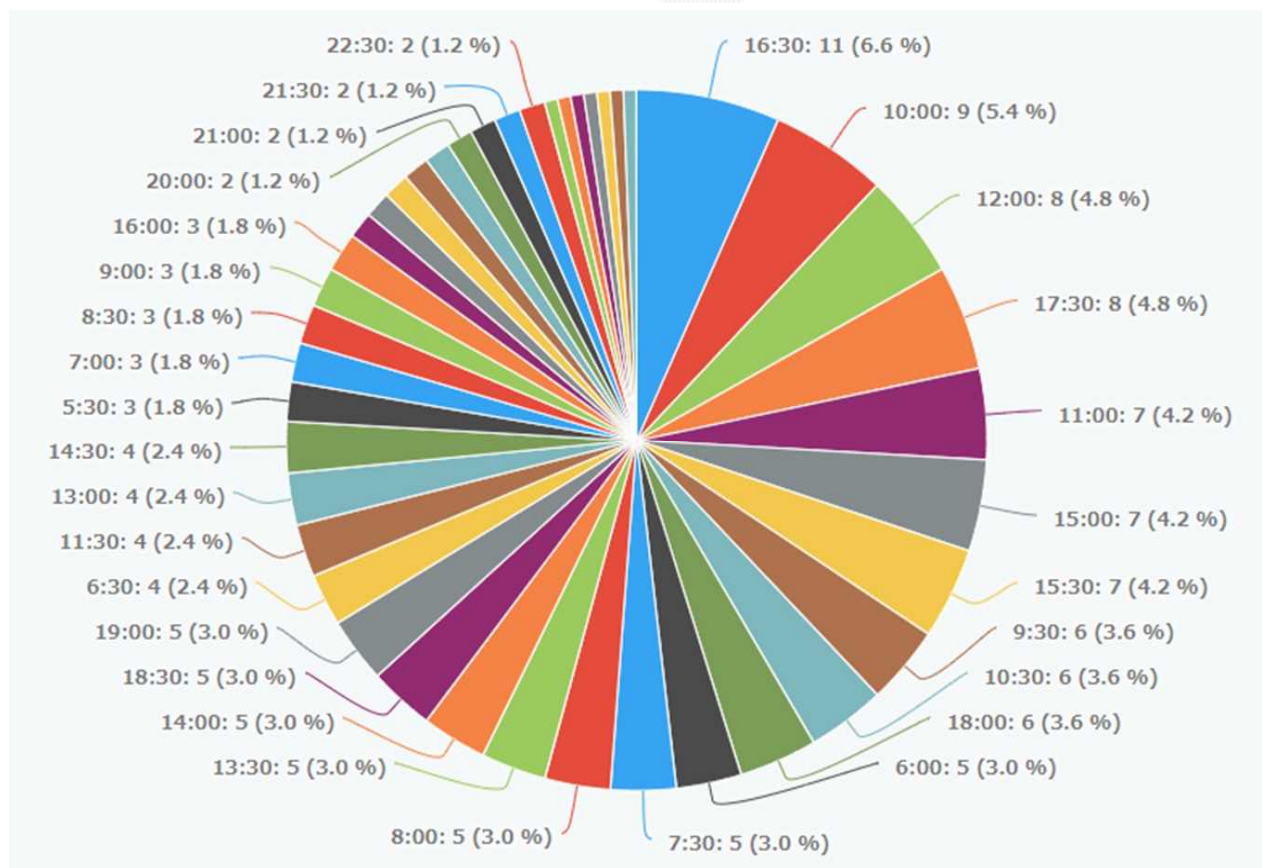




事故発生日: 令和7年4月～令和7年12月



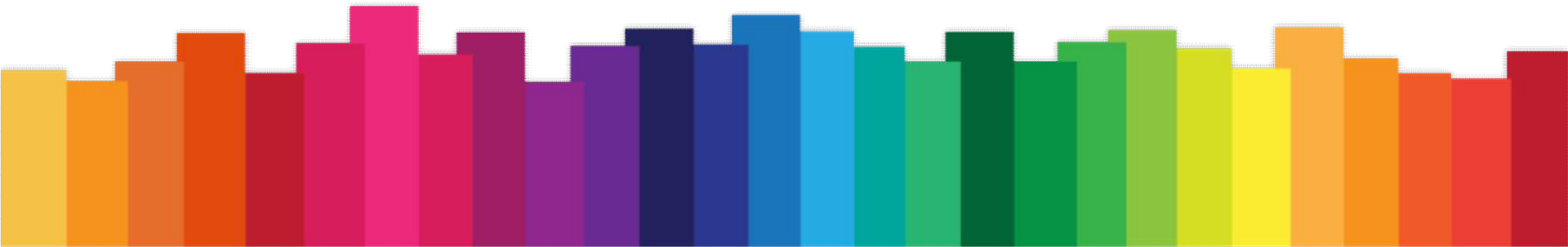
事故が起きやすい時間帯



事故発生日: 令和7年4月～令和7年12月



宇城市の傾向





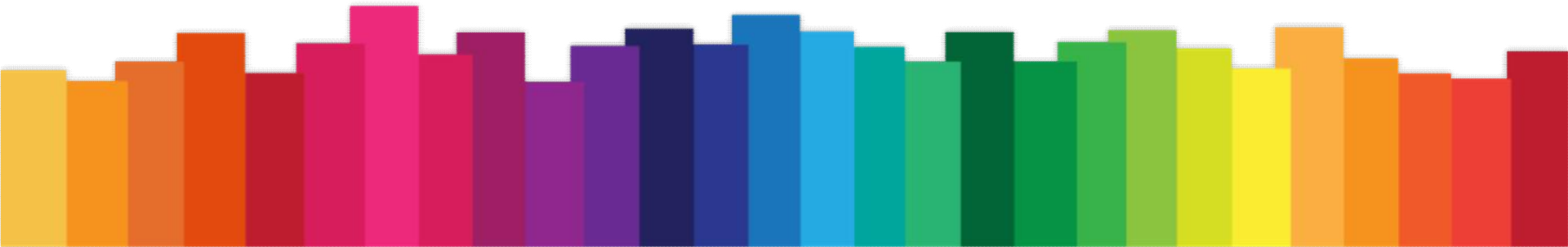
転倒による骨折及び誤薬（与薬を含む）の事故が多く、原因としては、見守り不足や確認不足によるものが多い。

介護度は要介護3、4が多く、発生する時間帯は差異がないように見える。





事故を防ぐための具体策





転倒の場合

生活の場である以上、「防ぐことが難しい転倒」があることを本人や家族にも理解してもらい、個別に転倒リスクを把握し、それに応じた環境整備を行うことが重要である。



転倒の場合

転倒の原因は様々であり「防ぐことが難しい転倒」の場合もあるため、まずは、生活環境も含めて利用者のアセスメントを行い、利用者に適したサービスの実施や環境整備を行ったり、見守り機器などの介護テクノロジーを活用したりする。



誤薬（与薬漏れ含む）の場合

服薬事故は重大事故につながりかねないため、多段階確認など基本的な事項の徹底でヒューマンエラーが起こりにくい環境整備が重要であり、配薬準備と配薬前のそれぞれで対策を講じるのが望ましい。